

■高齢者の創業・就業の方向性

新しい高齢者の働き方のイメージ

～高齢者が自らつくるセカンドライフ創業・就業～

○現在ない働き方を高齢者自らが開拓する

人生90年時代の新しい働き方とは、男女の差やこれまでの知識・経験、自身の生きがい、年齢等、高齢者一人ひとりの背景や考え方に応じて多様なものとなる。このような多様さを実現するには、高齢者自らが中心となり、新しい働き方を開拓していこうとする姿勢が重要になる

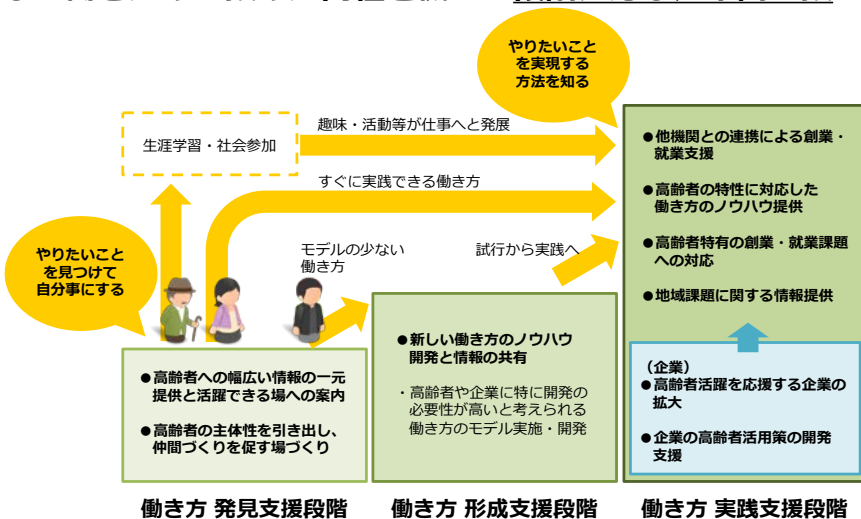
○地域社会を支える小さな創業が社会のセーフティネットになる

定年退職した人たちの力を事業運営やサービス提供の担い手として活用し、新しい地域課題を、新たな高齢者の活躍の場としてとらえ、地域社会を支えるための小さな創業がいくつも起きていることが、社会のセーフティネットとなる

■新しい働き方を実現するために解決すべき課題

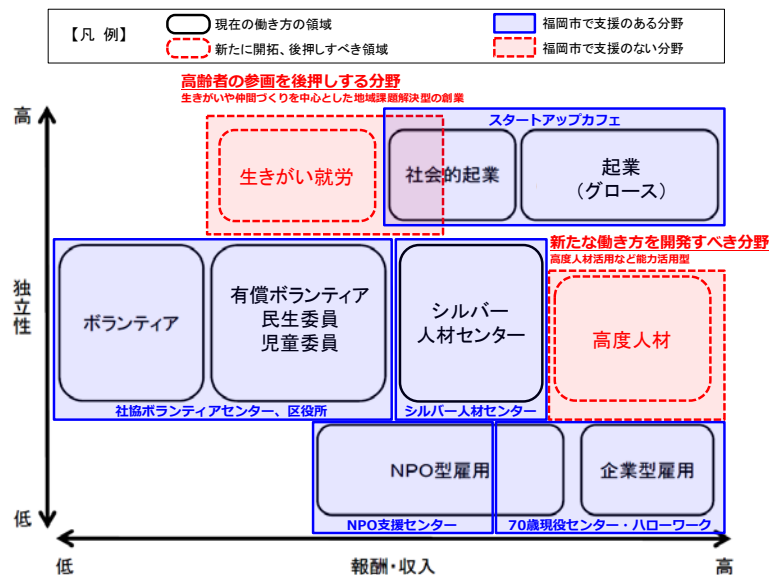
- 高齢者の幅広い社会参加の情報が分散している
- 新しい働き方への気付きの機会がない
- 高齢者の特性に対応した働き方を学ぶ機会がない
- 高齢者特有の創業・就業リスクへの対応がない
- モデルとなる先行事例の蓄積がない

■新しい働き方の支援の方向性と機能：段階に応じた中間支援



※高齢者がセカンドライフを考え始めるのは、定年が来てからでは遅いため、団塊世代～現在の50歳代を新しい働き方を形成していくリーディング世代としてとらえる。

○高齢者の多様な社会参加・働き方に対応した対象領域



■新しい働き方を実現するための提言

○セカンドライフ創造センター（仮称）の設置

- ・高齢者への段階的な個別支援機能や、既存支援機関や企業等とのコーディネートといった中間支援機能は、高齢者の新しい働き方を支援する中核的機能を担う

○シニア創業チャレンジ支援会議（仮称）の設置

- ・高齢者活躍を応援する機関として、産学官による会議体を設立
- ・高齢者の新しい働き方の広報や、高齢者活用方策の検討、企業における多様な賃金の支払い方等の検討、モデル事業へ参画する企業の紹介などを行う

○既存組織との連携・協力

- ・高齢者の就労に関する団体と運営協議会を設立し、情報の共有・一元化や、支援内容の調整などを行う。
- ・創業の専門的な支援や、社会参加などの幅広い相談に対応するため、創業・事業化に関する団体、ボランティアやNPO、CB/SBに関係する団体とも連携する